

タブレットの方はこちらからもどうぞ

スライド等資料置き場

質問・感想フォーム



# 「ことば」の限界に立ち合う文学の授業

－ 「リア王の悲劇」を題材に－

広島大学大学院 佐藤宗大

広島大学附属小学校/広島大学院 山中勇夫

発表の構成

実践の概要

実践の詳細

実践の成果と展望

# 「ことば」とは何か？

「ことば」：人が感じ、伝えようとするもの

- 「表現されたこと」 = 「伝えたいこと」とは限らない

→本質的に、「ことば」は限界を抱えている

# 「ことば」とは何か？

言語能力の向上では「限界」を越え得ないはずが……

明瞭で論理的な「ことば」を志向する教育によって、

児童を「語れること」の内部に押しとどめていないか？

→「語れない子」の「ことば」はどうなる？

「ことば」とは何か？

「ことば」の学びとしての国語教育が育てたいもの

**さまざまな「ことば」と出会い、**

**伝え合おう、分かりあおうとする姿勢（≠能力）**

→ 「ことば」の限界に立ち合うという経験の必要性

# 「ことば」とは何か？

本実践の目指したこと

多様な「ことば」の交流の場としての文学教育で、

学習者を「ことば」の限界に立ち合わせる

# 実践の概要

# 実践の概要

## 単元名

### 「リア王の悲劇」のリーディングシアターを開こう」

- 日時 2022年6月3日～2022年7月4日（途中修学旅行や計画変更等による中断を含む）、全11時間
- 対象 某大学附属小学校第6学年(2クラス) ※本発表はそのうち1クラス分の実践を元にする
- 教材 「リア王の悲劇」より 第1幕第1場
  - (シェークスピア[河合祥一郎訳]『新訳 リア王の悲劇』角川文庫, 2020を底本とする)
  - ※補足資料として石森延男他『小学新国語 六年 上』光村図書, 1975

# 実践の概要

## 「リーディングシアター」とは？

→朗読劇の本単元での呼称（**身体化**をやや重視）

- 音読 + 身体化

- 劇化 - 舞台装置

頭で理解するだけではなく、

身体化によって児童の「ことば」を拓く

（舞台装置に凝りすぎることもない）

# 実践の概要

なぜ「リーディングシアター」なのか？：児童観との関連から

対象児童：合理的で明瞭な「ことば」が優位＝「**語れる子**」

→曖昧で筋が通らない意見を「不完全」と捉えがち

→「語れない子」の「ことば」をうまく受け入れられない

# 実践の概要

なぜ「リーディングシアター」なのか？：児童観との関連から

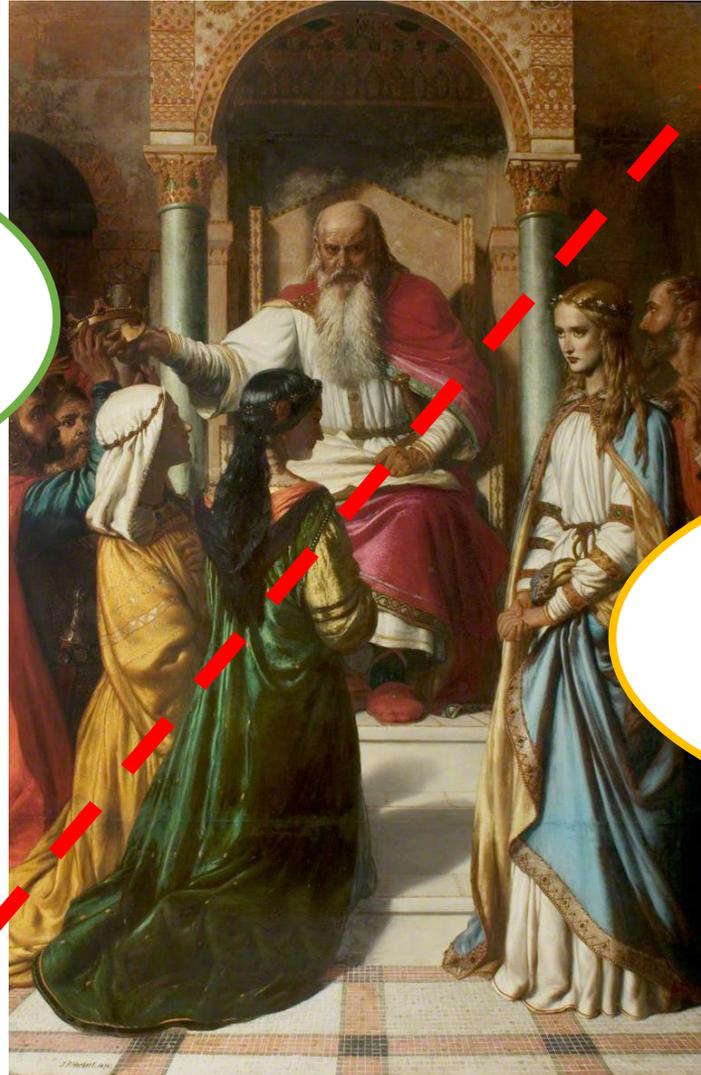
「語れる子」だからこそ必要な「ことば」の学び

→ 合理的で明瞭ではない「ことば」とも関わり合える力を付ける

→ 「ことば」の限界に、彼らを立ち合わせたい

# 実践構想の背景

リア王  
「言われたこと」  
重視



「ことば」観の対立<sup>ゆえの</sup>

断絶・「悲劇」

コーディーリア  
「言わんとすること」  
重視

# 実践の概要

「語れる子」たちを「リア王」にしない国語教育

→自分ごととして「リア王の悲劇」の問題を引き受けるための**身体化**

コーディネーリアの「ことば」へとひらく「ことば」の空間づくり

→リーディングシアターづくりと**意見交換**という活動

# 実践の概要

※0次 シェークスピア作品に触れよう

## 単元計画

次	活動内容
1	<b>さまざまな表現方法に触れよう（1時間）</b> － 「リーディングシアター」との出会い－
2	<b>「リア王の悲劇」のリーディングシアターを作ろう（3時間）</b> － 「リア王の悲劇」を「読む」ことを通した「ことば」の限界との出会い－
3	<b>「リア王の悲劇」のリーディングシアターのリハーサルをしよう（2時間）</b> － 身体化を通した読み深めとドラマに潜む「ことば」の限界との出会い－
4	<b>「リア王の悲劇」のリーディングシアターを見合って、意見を交流しよう（5時間）</b> － 演じた「ことば」、演じられた「ことば」を通した自己の「ことば」の限界との出会い－

# 実践の概要

※0次 シェークスピア作品に触れよう

## 単元計画

次	活動内容
1	<b>さまざまな表現方法に触れよう（1時間）</b> － 「リーディングシアター」との出会い－
2	<b>「リア王の悲劇」のリーディングシアターを作ろう（3時間）</b> － 「リア王の悲劇」を「読む」ことを通した「ことば」の限界との出会い－
3	<b>「リア王の悲劇」のリーディングシアターのリハーサルをしよう（2時間）</b> － 身体化を通した読み深めとドラマに潜む「ことば」の限界との出会い－
4	<b>「リア王の悲劇」のリーディングシアターを見合って、意見を交流しよう（5時間）</b> － 演じた「ことば」、演じられた「ことば」を通した自己の「ことば」の限界との出会い－

# 実践の考察

何が起きたか、どう感じたか

# 実践の考察

単元を通して目指していた授業空間

- 1.合理的・明瞭な「ことば」以外の「ことば」が活躍する
- 2.「リア王の悲劇」の問題が児童自身の問題として析出する

# 実践の考察

単元を通して目指していた授業空間

**1.合理的・明瞭な「ことば」以外の「ことば」が活躍する**

2.「リア王の悲劇」の問題が児童自身の問題として析出する

# 実践の考察

1.合理的・明瞭な「ことば」以外の「ことば」が活躍する

Ex. SY児

率先して授業で意見を言う方ではない

理路整然なエリート気質とは違うマイペースさ

# 実践の考察

1.合理的・明瞭な「ことば」以外の「ことば」が活躍する

Ex. SY児

台本を読み深める活動(2次)では「退屈そう」な姿

→座って「読む」中心の活動からはあまり刺激がない？

# 実践の考察

1.合理的・明瞭な「ことば」以外の「ことば」が活躍する

Ex. SY児

But リハーサル(3次)では、率先して班の演出をリードする姿が

→技術ではなく、「**心情**」からどう演技するかを考えている

# 実践の考察

コーディネリア「愛して黙っていよう」(p.1)についての相談

YG もうちょっと大きくして読む[のはどうか]。←**技術・客観的**

**SY** 考え事するじゃん、あなた。……←**心情・同化的**

→SYの「ことば」が、班員の「ことば」を開いていく様子

# 実践の考察

1.合理的・明瞭な「ことば」以外の「ことば」が活躍する

Ex. SY見

発表会後の意見交流：挙手して全体での議論にも積極的に参加

→ 「役の立場からそのときどう感じたか」を演技者に問いかける

# 実践の考察

SY リア王に質問なんですけど、最後のところで、「ならばよい」から、えっと……最初の1行目くらいは呆れた感じだったんですけど、「太陽の聖なる…」ぐらいは戸惑いって感じっていうか、その、今から親子の縁を切るっていうわけじゃないですか、リア王も勇気がいると思うんですけど、そこら辺ってどうだったんですかね。

LS あんだけ怒らせておいて勇気っていうのはいらないと思います。リア王は短気だから。

# 実践の考察

SY じゃあもう流れで[「縁を切る」と言った]？

LS 流れに任せて言っちゃえーって。

GK 縁を切ることを恐れてない。

SY だからもう、[縁が]切れることにも後悔しない[ってことなんだ]。

LS 王様だから。

# 実践の考察

## SY児への考察

SY児自身の「ことば」によって読みを深め、

他者の「ことば」とも渡り合えるようになった

# 実践の考察

## SY児への考察

合理的・明瞭な「ことば」以外の「ことば」が活躍

SY児自身の「ことば」によって自身の読みを深め、

他者の「ことば」とも渡り合えるようになった

# 実践の考察

単元を通して目指していた授業空間

- 1.合理的・明瞭な「ことば」以外の「ことば」が活躍する
- 2.「リア王の悲劇」の問題が児童自身の問題として析出する**

# 実践の考察

単元を通して目指していた授業空間

1.合理的・明瞭な「ことば」以外の「ことば」が活躍する

**2.「リア王の悲劇」の問題が児童自身の問題として析出する**

→佐藤による働きかけで析出 or 児童自身のやりとりの中に自然と析出

# 実践の考察

2. 「リア王の悲劇」の問題が児童自身の問題として析出する

序盤：児童の論点が「**うまくやれたかどうか**」に集中する傾向

→ 「表現」の工夫や意図にばかり目がいく

# 実践の考察

案の定、当初は技術的視点からの質問が目立つ結果に

SB DTさんが、リア王って男の人だから、ちょっと、太い声とかでできるのかなと思ったけど、めっちゃ迫力があってすごいなと思いました。

DT えっと、リア王はえらい感じがあるから、ちょっと威圧感を入れてみました。

技術的な「再現」に関心→根深くも無意識な「リア王」性

# 実践の考察

2. 「リア王の悲劇」の問題が児童自身の問題として析出する

序盤：児童の論点が「**うまくやれたかどうか**」に集中する傾向

コーディリアの「ことば」に向き合えているか……？

# 実践の考察

2. 「リア王の悲劇」の問題が児童自身の問題として析出する

## 2.1 ZD児とLB児の事例

佐藤からの質問で「たまたま」問題と出会うことになった

→児童だけではなく、佐藤にとっても「たまたま」

# 実践の考察

2. 「リア王の悲劇」の問題が児童自身の問題として析出する

## 2.1 ZD児とLB児の事例

児童たちがその役を通して見えたものを佐藤が知りたかった

→あえて児童に「役名で」呼びかけて質問する試み

# 実践の考察

佐藤 じゃあ一個だけ。コーディネリアに聞いてみたいんですけど。「愛して黙っていよう」の時は「ちょっと自信がないんだ」と言っていましたよね。「言うことは何もございません」のところはどんな気持ちで言っていましたかね。

LB 「言うことは何もございません」のところは、**決断?**って言うような感じ。

佐藤 なるほど。そんな時には自信があった、って感じ?

LB (少し考えながら) 半分半分っていうか、**中途半端。**

自分ごととして  
(自然と) 考える

# 実践の考察

佐藤 中途半端、なるほど。その「中途半端」な「何もございません」を聞いてリア王は  
どう思った？

ZD えっ、中途半端……中途半端っていうか、あんまその意図は感じられなかった。なん  
か普通にリア王からしたら、あのコーディーリアがそんなことを言うとは思ってなかった  
から、そういう中途半端なところよりも、内容の方に行っちゃったみたいな。

思わぬ「すれ違い」

→ 「ことば」の限界との予想外の出会い

# 実践の考察

## 佐藤の質問後からの児童の変容

- 「そのとき登場人物はどういう思いだったか？」を問う質問が増える
  - 「声の大きさ」や「表現のうまさ」以外にも関心が向くように
- 児童らもまた、役名で呼びかけて質問することが目立つように
  - ここまでは児童たちは本人の名前で質問していた

# 実践の考察

2. 「リア王の悲劇」の問題が児童自身の問題として析出する場

2.2 児童同士のやりとりの中からの析出

SD児：自分の意見を基準に理詰めで質問する：「**リア王**」的

JJ児：自分の思いをうまく伝えられない：「**コーディーリア**」的

# 実践の考察

p.1 コーディーリア 「愛して黙ってしよう」について

## SD児（質問者）

そのセリフにはどういう気持ちを込めていたか？

では読み方の抑揚はどんなことを意識したか？

意識してるのに「なんとなく」って矛盾してない？

## JJ児（コーディーリア役）

ああかな、こうかなと迷ってる感じ

なんとなく、いつも自然とそうだった

困惑して立ち尽くしイライラする

# 実践の考察

p.1 コーディーリア「愛して黙っていよう」について

SD児（質問者）

「言われたこと」

重視

JJ児（コーディーリア役）

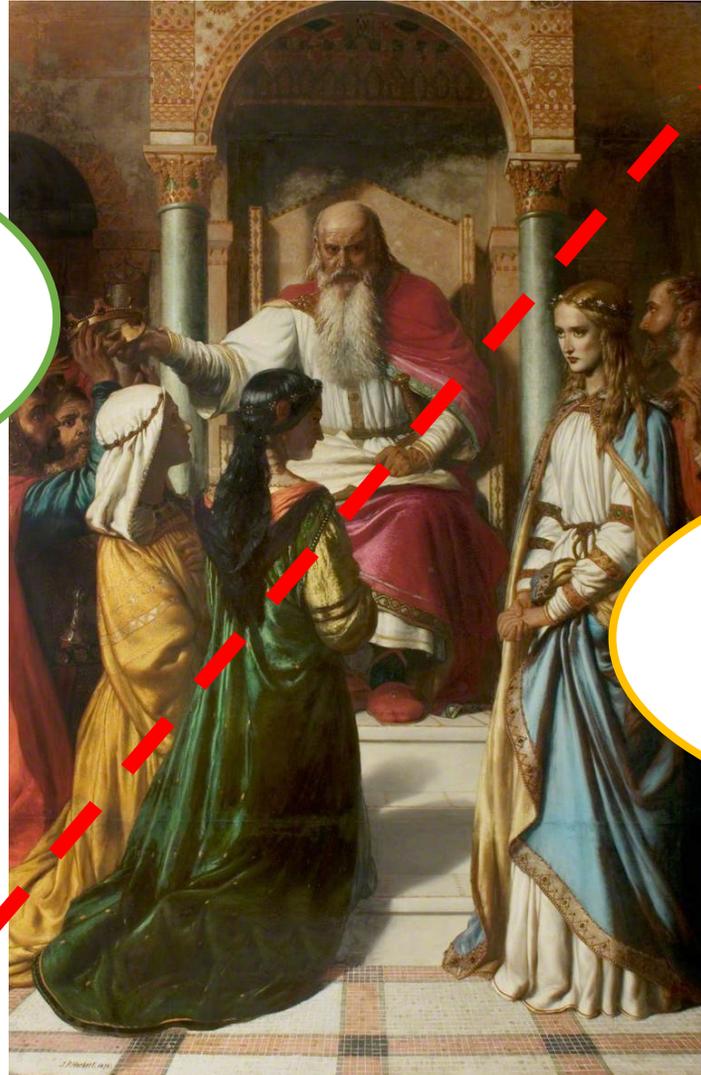
「言わんとすること」

重視

「ことば」観の対立ゆえの断絶

# 実践構想の背景

リア王  
「言われたこと」  
重視



「ことば」観の対立ゆえの

断絶・「悲劇」

コーディーリア  
「言わんとすること」  
重視

# 実践の考察

2. 「リア王の悲劇」の問題が児童自身の問題として析出する場

2.2 児童同士のやりとりの中からの析出：SD児とJJ児の事例

山中教諭、佐藤が声かけで議論を整理、価値づけ

→ 「ここに今リアとコーディーリアのドラマが再現されたね」

# 実践の考察

2. 「リア王の悲劇」の問題が児童自身の問題として析出する場

2.2 児童同士のやりとりの中からの析出

SD児とJJ児の「分かり合えなさ」に「ことば」の限界が現出

→しかし、児童自身にそれが自覚できたわけではない

# 実践の考察

## 単元の振り返り

リーディングシアターという活動には肯定的な感触

私は、最初に、リーディングシアターを聞いたときになんかすぐにできそう！と思ったけどやる前の授業を受けてみて、おくがふかいなと思った。実際に練習をしてみると人が思うことと私が思うことがちがったりして、むずかしかったです。でも本番は、班として気をつけようとしたところはできたからよかった。またやりたいです！（GK）

# 実践の考察

## 単元の振り返り

「ことば」の限界に出会ってくれた子も

私は、初めて「リーディングシアター」を聞いた時は（何だろう？）と  
思っていました。でも、授業を続けていくうちに、おもしろそうだな、  
やってみたいなと思いました。実際、リーディングシアターをやってみる  
と、自分が伝えなかったことを伝えようとしても自分以外の人にそのまま  
伝えることはむずかしいなと思いました。（SB）

# 実践の考察

## 単元の振り返り

まさにコーディネリアを追体験した児童（JJ児）

私はコーディネリア役をしたけれど、初じめて（マ）、台本を読んだ時、コーディネリアがーばんキャラがぼやけているか感じで、こういう性格だなとか、こういうことが言いたいんだななどがはっきりしなかった。自分の班のメンバーとリーディングを作る時も自分の中でコーディネリアがあらわせなくて難かしかった。最終的にはイメージがつかめたけど、本番で質問に答えられなくて少し怖かったし、悔やしかった（マ）。自分が思って完べきだと思っていたけど、コーディネリアがどんな性格かがよく分っていなかったから、質問に答えられなかったのだと思う。また、チャンスがあればまたよく性格を理解して、ちょうせんしたいです。（JJ）

# 実践の考察

## 単元の振り返り

もちろん、表現の巧拙にとどまる児童も

最後のリア王の台詞の最初「ならば～」の部分でリアの怒りを表現するために座席を手で軽くたたき予定だったのができなかったのにくわえ全体的に早口になってしまった。

さらにリーガンにも指をさす予定だったのにそれもできなかった。

だから次リーディングシアターをやる時は落ちついてやるようにしたい。 (DZ)

# 実践の考察

単元の振り返り

山中教諭からのまとめ

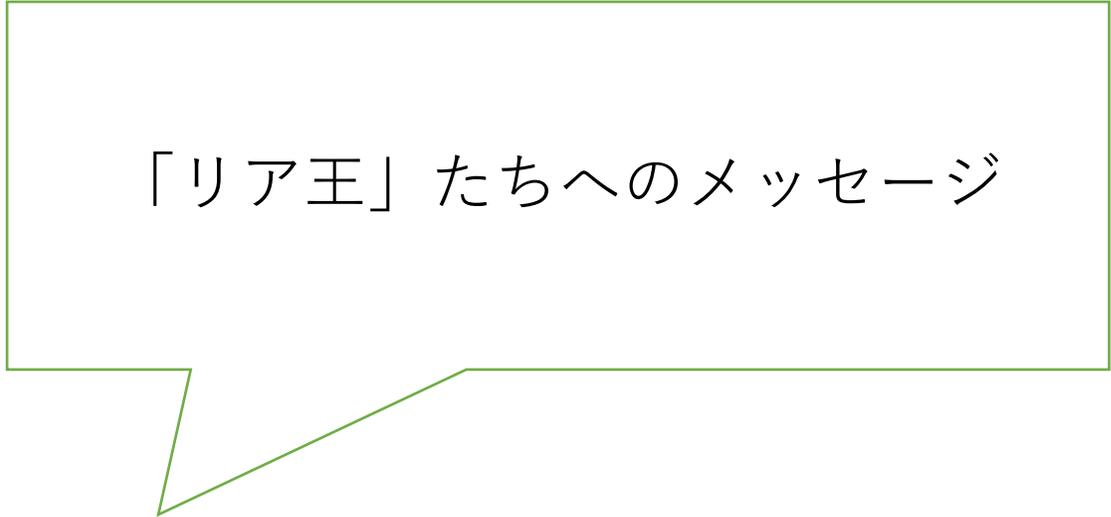
「全てが言語化できるわけではないし、

それだからこそ、伝えようと努力することが大切」

# 実践の考察

単元の振り返り

山中教諭からのまとめ



「リア王」たちへのメッセージ

「全てが言語化できるわけではないし、

それだからこそ、伝えようと努力することが大切」

# 実践の考察

単元の振り返り

山中教諭からのまとめ

「コーディネリア」たちへのメッセージ

「全てが言語化できるわけではないし、

それだからこそ、伝えようと努力することが大切」

# 実践の成果と展望

何ができて、何が見えてきたか

# 実践の成果と展望

「**語れる子**」だから**必要**な実践と題材

- 「リーディングシアター」という言語活動の設定

→さまざまな「ことば」との出会いや交錯

- 「リア王の悲劇」という題材の設定

→「ことば」の対立と断絶という（実は）他人事ではない問題

# 実践の成果と展望

「ことば」の限界と出会う文学教室

- 「リア王」たちに、異なる「ことば」と出会わせる
- 「コーディーリア」たちの「ことば」を位置付ける

しかし、この点について十分に自覚させられたかは不明

# 実践の成果と展望

「語れる子」であればこそ、

「語りうる」ものの内部に閉じていってしまう可能性

→言語能力「だけ」の教育の危険性

# 実践の成果と展望

言語に回収しきれないものと出会い、

それを表現しようとする能動性に基礎付けられる国語教育

→ 「ことば」の学びのはじまりとしての文学体験

タブレットの方はこちらからもどうぞ

スライド等資料置き場

質問・感想フォーム

